

平成20年度 八戸市公共事業再評価シート

No. 20-③

評価対象事務事業名	八戸市公共下水道事業 (馬淵川左岸第二、第五排水区)	担当部署(電話) 下水道建設課計画調査グループ
------------------	-------------------------------	-----------------------------------

再評価実施要件	<input type="checkbox"/> 事業採択後 <input type="checkbox"/> 再評価実施後	<input type="checkbox"/> 5年経過 <input type="checkbox"/> 10年経過	<input type="checkbox"/> 未着工 <input type="checkbox"/> 継続中	(その他)	現在、事業を実施している雨水排水区について再評価することで、事業の効率性、透明性の確保を図る。
----------------	---	---	--	-------	---

再評価実施要綱第3条第1項第4号該当

1 事業の概要

総合計画の 施策の体系	分野	5. 安全・安心なまちづくり
	大施策	5-4 居住環境の整備
	中施策	(1) 快適でうるおいのある市街地の形成
	小施策	③ 下水道の整備
	事業	公共下水道の整備

事業 方法	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫補助事業
	<input type="checkbox"/> 県補助事業
	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業
財源 負担	<input checked="" type="checkbox"/> 国 50 %
	<input type="checkbox"/> 県 %
	<input checked="" type="checkbox"/> 市 50~100 %

採択年度	昭和60年度	(用地着手 昭和60年度)	(工事着手 平成17年度)
終了年度	平成32年度	平成14年 9月工期変更	(変更前の終了年度 平成22年度)

目的	近年、全国的に記録的な集中豪雨や長雨による浸水被害が多発している。河原木地区(馬淵川左岸第二排水区)及び尻内地区(馬淵川左岸第五排水区)においても、大雨により河川の水位が上昇し、河川に排水ができなくなる内水被害が発生している。このような浸水被害の解消を目的として、馬淵川左岸第二及び第五排水区を対象に公共下水道(雨水)を整備する。	内容			当初計画		再評価時		整備状況
					全体計画	認可計画	全体計画	認可計画	[H19年度末]
			排水区域面積 (ha)	左岸第二	552	265	552	265	18
				左岸第五	44	0	44	0	0
			計画流出量 (m3/min)	左岸第二	1,247.52	1,247.52	1,247.52	1,247.52	0
				左岸第五	268.02	0	268.02	0	0
			管渠延長 (m)	左岸第二	-	20,382	-	20,382	6,980
	左岸第五	-	0	-	0	0			
ポンプ能力 (m3/min)	左岸第二	1,248	1,248	1,248	1,248	0			
	左岸第五	270	0	270	0	0			

事業費	○ 当初計画時総事業費 17,894 百万円		○ 再評価時総事業費 17,894 百万円		(単位:百万円)			
		~17年度	18年度	19年度	20年度	小計	21年度~	合計
	当初計画 (うち用地費) 【H2年基本計画】	-	-	-	-	-	-	17,894 (255)
	計 画 (うち用地費) 【H20年4月認可】	535 (90)	543 (0)	1,948 (0)	2,205 (0)	① 5,231 ② (90)	12,663 (165)	⑤ 17,894 ⑥ (255)
	実 積 (うち用地費)	535 (90)	543 (0)	672 (0)	1,178 (0)	③ 2,928 ④ (90)	14,966 (165)	17,894 (255)

2 評価

(1) 事業の進捗に関する視点 A

進捗 状況		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	事業費割合 (うち用地費)	16.36 % 【③/⑤】 (35.29 %) 【④/⑥】	55.97 % 【③/①】 (100.00 %) 【④/②】

《説明》
○平成17年度に工事着手しているため、計画全体に対する事業費割合の進捗は16.36%となっているが、今後は財源を確保するとともに効率的に整備を進めていく。

(2) 事業の必要性等に関する視点 A

必要性	○近年、馬淵川左岸の浸水被害は、長雨などによる河川水位の上昇、及び宅地化の進行による雨水流出量の増大により、年々増加傾向にある。								市民等の声																																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">浸水被害(過去10年)</th> <th>H11</th> <th>H13</th> <th>H14</th> <th>H16</th> <th>H18</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">馬淵川左岸第二 (河原木地区)</td> <td>床上</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>24</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>床下</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>25</td> <td>100</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">馬淵川左岸第五 (尻内地区)</td> <td>床上</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>15</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>床下</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>36</td> </tr> </table>									浸水被害(過去10年)		H11	H13	H14	H16	H18	計	馬淵川左岸第二 (河原木地区)	床上	1	1	0	0	24	26	床下	0	3	6	25	100	134	馬淵川左岸第五 (尻内地区)	床上	8	1	2	0	15	26	床下	0	2	16	8	10	36
	浸水被害(過去10年)		H11	H13	H14	H16	H18	計																																							
	馬淵川左岸第二 (河原木地区)	床上	1	1	0	0	24	26																																							
		床下	0	3	6	25	100	134																																							
	馬淵川左岸第五 (尻内地区)	床上	8	1	2	0	15	26																																							
		床下	0	2	16	8	10	36																																							
	○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																														
	○当地区周辺には、保育園・小学校・給食センター・消防署・介護施設及び病院があり、浸水時における都市機能の確保、個人財産保護のため、早急な浸水対策が必要である。																																														
	○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																														
○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																															
○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																															
○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																															
○平成19年3月国・県・三市町で策定した「馬淵川の総合的な治水対策」において両ポンプ場が、「ハード対策」に位置づけられている。																																															

(3) 事業の投資効果に関する視点 B

費用対効果分析	(単位:百万円)				
	区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
	費用項目 ◎	① 管渠建設費	—	8,694.4	—
		② ポンプ場建設費	—	11,723.7	—
		③ 用地費	—	276.5	—
		④ 維持管理費	—	258.8	—
	◎ 総費用		—	20,953.4	—
	便益項目 ◎	① 浸水の防除効果	—	33,800.4	—
		② 残存価値	—	1,263.0	—
		◎ 総便益		—	35,063.4
B/C		—	1.67	—	

《説明》

- 費用対効果分析手法
「下水道事業における費用効果分析マニュアル(案)」
(平成18年11月(社)日本下水道協会)に基づいている。
- 特記事項
○事業継続の判断基準
B/C 1.0以上
○費用効果分析は外部委託で実施
受託業者: セントラルコンサルタント(株)
委託金額: 4,197,375円

(4) 事業のコスト縮減等に関する視点 A

コスト縮減	○国土交通省が策定している「下水道事業コスト構造改革プログラム」に則りコスト縮減に努めている。 管渠の最小土被りを浅くするなど。
	代替案
○当該事業は浸水の防除が目的であり、下水道を整備する以外の浸水対策は考えられず、また、施設計画も最も効率的・効果的である。よって、代替案はない。	

(5) 市民ニーズの視点 A

把握方法・内容	○下水道整備に対して、数多くの要望や問合せを受けており、市民のニーズは年々高まっている。 ○地元では自主防災組織等を設立するなど、水害を含む自然災害に対する危機管理の意識が浸透している。
----------------	--

(6) 環境影響への視点 A

配慮手法	該当項目数3項目(実施数3項目) ○建設機械や工事車両には、低騒音、低振動、低排出ガスの機械の利用を促進する。 ○建設副産物のリサイクルを推進し、廃棄物の発生を抑制する。 ○廃棄物は徹底的に分別処分し、適正に処理されたことを確認する。
-------------	--

3 対応方針(案)

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 中止
理由	「B」評価はあるが、当地区は未だ浸水被害が解消されておらず、今後も被害が発生する可能性が高い。よって、事業継続とし、早期の完成を目指したい。		

4 行政経営検討委員会意見

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 中止
付帯意見・理由等	当該地区の浸水被害を解消し市民生活の安全・安心を確保するため必要な事業であると認められることから、その着実な推進が望まれる。		

5 対応方針(決定)

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 中止
理由	対応方針(案)に示したとおり事業継続とし、事業実施にあたっては、行政経営検討委員会の意見をふまえ実施する。		